

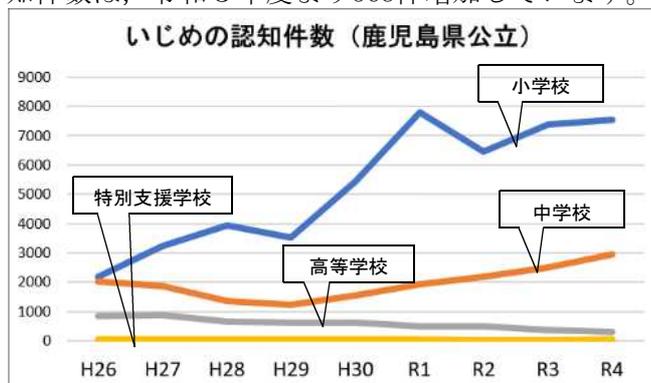
## 鹿児島県公立学校における令和4年度児童生徒のいじめ・不登校の状況

高校教育課・義務教育課

鹿児島県公立学校における令和4年度児童生徒のいじめ・不登校の状況は以下のとおりです。

### いじめの状況

令和4年度の本県公立学校におけるいじめの認知件数は、令和3年度より568件増加しています。



県教委では、各学校に対して、いじめほどの学校でも、どの子にも起こり得るとして、冷やかしかからかいなどの軽微と思われることでも「いじめの芽・兆候」として積極的に把握し、「まだ気付いていないいじめがある」、「1件でも多く発見し、それらを解消する」という姿勢で臨むように指導をしています。

令和4年度は、いじめの積極的な認知に対する理解が広がっている状況がある中で、コロナ禍で制限されていた部活動や学校行事等の様々な活動が再開されて、児童生徒同士の接触の機会が増加したことなどから、いじめの認知件数が増加したと考えられます。

<いじめの100人当たりの認知件数（国公立小中高特）>（単位：件）

	R1	R2	R3	R4
鹿児島県	5.4	4.8	5.4	5.8
全国平均	4.7	4.0	4.8	5.3

上の表を見ると、本県のいじめの認知件数は、毎年全国平均を上回っていますが、文部科学省は、いじめの認知件数が多いことは、「いじめの解消に向けた取組のスタートラインに立っている」と極めて肯定的に評価しています。県教委では、早期にいじめを発見できるよう、各学校へ年間5回以上のアンケート実施を呼びかけています。

### 不登校の状況

令和4年度の本県公立学校における不登校児童生徒数は、前年度と比べて小学校で407人、中学校で350人、高校で62人増加しました。

<本県公立学校における不登校児童生徒数>（単位：人）

	R1	R2	R3	R4
小学校	466	595	833	1,240
中学校	1,511	1,671	2,153	2,503
高等学校	726	723	702	764
合計	2,703	2,989	3,688	4,507

不登校の要因は、以下のとおりです。

<小学校>

- 1位 無気力・不安（42.3%）
- 2位 親子の関わり方（16.6%）
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行（12.3%）

<中学校>

- 1位 無気力・不安（47.0%）
- 2位 いじめを除く友人関係をめぐる問題（15.7%）
- 3位 生活リズムの乱れ、あそび、非行（8.8%）

<高等学校>

- 1位 無気力・不安（34.0%）
- 2位 いじめを除く友人関係をめぐる問題（13.9%）
- 3位 入学、転入学、進級時の不適応（9.4%）

不登校の要因は、社会が年々多様化・複雑化している中で、様々な要因が複雑に絡み合っており、一概に限定することは困難な状況ですが、不登校児童生徒数の増加については、児童生徒の休養の必要性を明示した「教育機会確保法」の趣旨の浸透により保護者の意識が変化したこと、コロナ禍で様々な制限があり、交友関係を築くことが難しくなったことなどにより、登校する意欲が湧きにくい状況にあったこと等が背景として考えられます。

引き続き、周囲の大人が子供たちのSOSを受け止め、組織的対応を行い、外部の関係機関等とも連携しながら対処していくことが重要です。

詳細につきましては、  
<鹿児島県教育委員会ホームページ>に掲載しています。

